

総合整備計画書

福島県田村市常葉町 常葉辺地
辺地の人口 1,513人 面積 42.1k㎡

1 辺地の概況

(1) 辺地を構成する町又は字の名称

田村市常葉町常葉字 山田作、富作、桜ヶ入、式部内、上井坪、下井坪、
東向、田和上

田村市常葉町堀田全域

田村市常葉町早稲川全域

田村市常葉町関本全域

田村市常葉町山根全域

田村市常葉町小檜山全域

(2) 地域の中心の位置

田村市常葉町山根字堀田平 34-1

(3) 辺地度点数

135点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

当地区は、辺地の中心から田村市役所まで 10.8km、地域内の生徒が通う常葉中学校へは 3.9km、船引高等学校へは 10.6kmの距離にあり、公共機関・教育機関ともに遠方に位置している。これら公共機関等への交通手段として福島交通株が運行する路線バスもあるが、運行回数が少なく、地域住民の移動手段は自家用車や乗合タクシーの利活用が大半を占めるようになっている。

当地区は、戦後の入植者を擁する山間地帯であるため、生活水準の向上はもとより、地域住民の安心安全確保及び日常生活の利便性向上のためにも市役所、病院、学校等の公共施設までの市道及び農林道の整備が急務である。

また、当地区の主要な観光施設であるムシムシランドの利用者数は 1996 年をピークに減少傾向へ転じ、施設の老朽化や東日本大震災の影響も相まって苦しい状況が続いている。開園以降、大きな改修が行われておらず、競争力が低下しているため、施設の整備が急務である。

さらに、当地区の桧山（標高 992m）は、山頂付近のなだらかな高原地形や風光明媚な特性を活かした、キャンプ場としての利用など、観光地としてのポテンシャルを有しているが、施設等の整備が進まず課題となっているため、多くの集客が図れる観光地を目指し、地域の活性化を図る。

3 公共的施設の整備計画

令和3年度～令和7年度まで

5カ年（別紙計画書のとおり）

(別紙)

公共施設の整備計画

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業 債の予定額	備考
			特定財源	一般財源		
ムシムシランド施設リニューアル事業 【令和3～7年度】 ○ムシムシランド施設整備	田村市	235,000		235,000	235,000	
桧山高原観光地化事業 【令和7年度】 ○桧山高原観光開発施設整備	田村市	30,000		30,000	30,000	
合 計		265,000	0	265,000	265,000	

(別紙)

公共施設の整備計画

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち ち辺地対策事業 債の予定額	備考
			特定財源	一般財源		
市道余平田田代線 道路整備事業 【令和3年度～令和7年度】 ○道路改良・舗装 L=850m W=4.0m	田村市	80,000	0	80,000	80,000	
市道井坪線 道路整備事業 【令和3年度～令和7年度】 ○道路改良・舗装 L=1700m W=5.5(7.0)m	田村市	100,000	0	100,000	100,000	
市道富作2号線 道路整備事業 【令和3年度～令和7年度】 ○道路改良・舗装 L=427m W=4.0m	田村市	28,658	0	28,658	28,658	
市道東向線 道路整備事業 【令和3年度～令和7年度】 ○道路改良・舗装 L=995m W=5.5(7.0)m	田村市	125,000	67,500	57,500	57,500	
合	計	333,658	67,500	266,158	266,158	